

日本の野生動物管理の転換点

— 道内外の先進事例から学び

新たな体制作りに—



日本では戦後数十年間、野生動物を主に保護の対象として扱ってきた。しかし近年、シカをはじめとした一部の野生動物は、農林業被害だけでなく生態系にも悪影響をもたらしている。

また日本の野生動物管理は、その一翼を長らく一般狩猟者に頼ってきたが、減少し続ける一般狩猟者に依存した生態系維持は困難である。

現在、日本の野生動物管理は転換点を迎えている。

本シンポジウムでは、新たな時代の野生動物管理について環境研究総合推進費による支笏洞爺国立公園での研究事例を中心に、道内外の先進事例の報告とともに、野生動物管理を担う人材、組織、体制等について議論を深める。



2013
9/28(土)
13:30~16:30

札幌国際ビル
国際ホール

(札幌市中央区北4条西4-1)

入場無料
(先着200名)

※満員の際は入場をお断りする
場合もございます。

事前予約可

ご所属・お名前をご記入の上
下記アドレスまでご連絡下さい。
sikadeer.symposium@gmail.com

プログラム

◆趣旨説明：吉田剛司

(環境研究総合推進費「支笏洞爺国立公園をモデルとした生態系保全のためのニホンジカ捕獲の技術開発 (D-1103)」研究代表者)

◆講演

生態系モニタリングに基づくシカ管理の入口から出口まで

日野貴文／酪農学園大学

国立公園の生態系保全を目的とした野生動物管理

増田 泰／公益財団法人 知床財団

野生動物管理における関係諸機関の連携体制

大橋正孝／静岡県森林・林業研究センター

専門的・職能的捕獲技術者による野生動物の個体数管理

須藤明子／(株)イーグレットオフィス

◆総合討論

コーディネーター：近藤誠司／北海道大学

鈴木正嗣／岐阜大学



■主催 北海道新聞社、道新野生生物基金、酪農学園大学、環境省

■後援 北海道、北海道森林管理局、日本哺乳類学会、野生生物と社会学会

■お問い合わせ 酪農学園大学 環境研究総合推進費事務局
(sikadeer.symposium@gmail.com)